

令和7年度葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会 議事録

日 時

令和8年3月6日（金）15：00～16：40

場 所

議会協議会室2

出席者

委 員）古賀 紀江（委員長）、柳澤 要（副委員長）、宮寺 透雄、津吉 彰郎、
中野 徹、濱名 恵美子
事務局）和嶋政策財政部長、公共施設課石井課長、長谷川主査、伊倉主査

次 第

1. 葉山町公共施設等将来構想の策定等について
2. その他

資 料

- ・ 令和7年度葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会次第
- ・ **資料1** 葉山町公共施設等将来構想
- ・ **資料2** 附属資料 葉山町公共施設等将来構想 学校施設
- ・ **資料3** 堀内会館再整備基本計画
- ・ 葉山町公共施設個別施設計画
- ・ 【参考】令和7年度葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会委員名簿
- ・ 【参考】令和6年度葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会議事録

議事要旨

●開催の要否

出席者6名で過半数に達しているため、開催とする。

●会議の公開について

本日の委員会は公開とする。（傍聴1名）

●質疑・意見

- ・ 堀内会館について、何度か堀内地区の方とお話をしたが、町内会としては三ヶ浦町内会、諏訪町内会、あずま町内会が利用され、期待が高まっていると思うが、財政事情がある中

でこの規模の会館を整備する理由がわからない。2階建てだと費用がかかる。解決していない問題もある。この場で審議することではないが歓迎すべきような状況ではないと堀内地区の町内会長から聞いており、妥当性を欠くと思う。（委員）

→堀内会館再整備検討委員会を設置して令和6年度に計5回検討し、住民と意見交換会も開催した。2階建てにしたのは、町内会の防災備蓄品の置場として利用を予定している。諸問題はあるが、堀内12地区の町内会長と協議の上、町に無償で建物を譲渡する契約を締結した。建物を町が所有し、再整備に向けて計画を作成した。（事務局）

→現在は平屋建てであり、2階建てになると費用が増えることに疑問はないのか。津波浸水想定区域に整備することが不適切ではないか。（委員）

→津波浸水想定区域にはなるが、土砂災害時の自主避難所にすることを想定している。（事務局）

→倍近い面積を整備することに積極的な理由はないと思われる。（委員）

→これまで住民の意見を伺い、計画にはいただいた意見を反映した。（事務局）

→地元の3町内会では会館があったほうが便利だと思うが、解決しなければならない問題がある中で令和8年度に着工することに問題はないのか。（委員）

→将来構想の中で、4つの対象に堀内会館が選ばれた合理的な理由は何か。（委員長）

→築60年以上を経過し、老朽化が著しいことが挙げられる。（事務局）

→整備してほしい意見がある一方で、整備に前向きではない意見もあったのではないかと。（委員長）

→再整備に対する反対の声はなかったが、都市計画道路を考慮し南側に整備する計画にしたが、建てる位置について議会に陳情書が提出されている状況ではある。（事務局）

→堀内会館再整備検討委員会の委員に偏りはなかったのか。（委員長）

→公募による方、利用団体の方、地元3町内会の方が委員会の構成メンバーであり、偏ったつもりはない。（事務局）

- ・個別の施設をどうするのかということは資料から読み取れるが、コンクリート造なら60年が限度であり、50年経過すればほぼ建て替えの対象になり、どちらかという個別だけではなく横断的に公共施設を組み替えていくことが当然想定されているのだと思っている。例えば、学校は図書館や小中学校を集約したり、学校と他の公共施設を組み合わせることで効率化を図ることができるが、将来構想を見ても具体的に施設を横断的に他の施設にどのように組み込んでいくのかが読み取れない。床面積を増やすことは無駄になり、公共サービスを維持しながらどのようにイニシャルコストやランニングコストを削減していくのか見えてこない。都市マスタープランの中における位置づけ、人がたくさんいる地域に施設を整備させ、過疎化が進んでいる地域には交通機関を充実させて施設を削減していくことを検討したほうがよい。（委員）

→図書館を学校内に集約するか庁内で検討し、集会所については地域ごとに拠点を作ることを検討したが公表までには至っていない。学校施設についてはコモンズと呼ばれる空間を作り、将来的には集会所ではなく学校に住民が集まる仕組みを構築すること

- も考えられる。（事務局）
- 集約化によって痛みを伴うことはあると思うが、戦略的に進めたほうがよい。町立図書館は完全に学校内に移設させるのか。（委員）
- 将来的に学校図書室と連携する予定はあるが、町立図書館を残すかどうかはまだ結論が出ていない。（事務局）
- 小田原市では小中学校を小中一貫校にする動きがあるが、地元からの反対の声があり、教育をどうするのかという検討がされており、町として小中一貫教育をどのように行っていくのかということを考える必要がある。小中一貫教育のデメリットもある。45 学級になると規模としては大きく、将来的には児童数が減少することから、学級数の規模も合わせて考えていく必要がある。上山口小学校は残すのか。（委員）
- 教育委員会からは特色のある学校として残すと聞いている。（事務局）
- 統廃合ありきではなく、教育面での検討は必要。（委員）
- 去年の議事録を見ても、マスタープランとの関連など見えづらい説明になっている。堀内会館や福祉文化会館を再整備することだけしか読み取れない。町の中で関連しあっているもの、防災と関連し位置付けられ、ハザードマップ内に会館があるが、津波が押し寄せ波が引いた後、会館内の備蓄品が守られて取りに行くことができることなど示されておらず、住民が心配することがあるのだと思う。（委員長）
- 葉山小学校の敷地に小中一貫校を整備する理由は何か。（委員）
- 附属資料の 2 ページに記載されているとおり、建設候補地が 3 つあり、教育委員会においてそれぞれの観点について比較し、検討した結果が示されている。（事務局）
- 中学校の敷地が最も広い。町全体の都市計画の中で、学校を含めた再配置後の公共施設の整備を検討したほうがよい。葉山小学校の敷地に 45 学級の小中一貫校を整備することが、敷地面積の理由から相当厳しい印象がある。（委員）
- 都市マスタープランの中でも、役場庁舎のあるエリアに町の中心的な機能を持たせており、葉山小学校の敷地に小中一貫校を整備することは方向性としてずれていない。（事務局）
- 利用しなくなった施設等はどのように使うのか。（委員長）
- 葉山中学校内の敷地は市街化調整区域になり、使い方が限定される。民間企業が参入し活用できるか等の検討を進めたいと考えている。（事務局）
- ファシリティマネジメントであればどのようにお金を動かすのか検討すべきだと思う。ポテンシャルの高い地域の施設が使われず、空き地になるともったいない。（委員長）
- 葉山中学校の敷地は◎が多いが、交通アクセスの利便で△を付けているのであれば、交通ルートを検討することは都市計画上でありうる。葉山小学校の敷地を拡張できるならよいが、敷地面積を考えるなら葉山中学校の敷地を使うべきだと思う。（委員）
- 人口減少により 10 年前と比較すると新 1 年生の児童数は半数になった。子ども達の安全・安心の観点から早急に学校を再整備してもらいたい。教育の内実をどうしようかと皆で考え、機運は醸成されている。葉山小学校は創立 100 周年を迎えたが、どのような学びの場がよいのか子ども自身が考え始めている。スペースの確保が大事であり、複合

化や集約化も重要であり、検討が円滑に進むように様々な会議体が連動するように会議体のあり方を見直す必要があるかもしれない。専門家や事業者の知恵も欠かせない。

(委員)

→義務教育学校にするのか。(委員)

→令和7年度から南郷中学校区で施設分離型小中一貫教育が開始され、令和8年度には葉山中学校区においても開始される予定だが、物理的に厳しいこともあり、将来的には分離型ではなく統合型小中一貫校が望ましい。(委員)

→小中学校を集約することで通学時はバスを利用することになる。上山口小学校を残さなくてよいと思うが、町民の不便さも考えないといけないから残すことになるのだと思う。面積は相対的に削減していくほうがよい。以前は南郷中学校区を先に整備するということだったが、通学の問題が追いついていない。200億円の費用を考える前にまず通学の問題を考えるべきだと思う。(委員)

→小中一貫校が整備されたら、上山口小学校の児童は卒業するとどの中学校に通うのか。(委員)

→義務教育学校に通学することになる。(事務局)

→義務教育学校だと1～9年になり、4・3・2制になると思うが、品川区のように途中から私立の中学校に生徒が流れないような仕組みを作っている試みがある。上山口小学校と義務教育学校を連携させていないと、途中から義務教育学校に通学する児童・生徒が馴染みにくくなるのであれば、町全体で教育の仕組みを作るべきだと思う。(委員)

→そのような理由で1小学校1中学校の南郷中学校区を先に整備するという話だったのだと思う。(委員)

→上山口小学校では特色を持たせた授業を行っており、学びの観点から一体的に検討できるほうがよい。(委員)

→町の教育プランに基づいた検討ができるとよい。小田原市では小規模特認校の扱いをどうするかという問題があり、地域事情もある。地域によって疎外感が生まれないように、教育サイドでガイドラインを作るべきではある。(委員)

→教育面で特色のある町だと全国に示せるような心意気を持って取り組んだほうがよい。将来構想の4つの対象の中で、学校再整備が最もお金がかかるが、お金を投下しただけの甲斐があり、素晴らしい子どもが育ち、そこで育ったからいずれたくさんの人が戻ってくるように、そこまで考えたほうがよい。説明を聞いていて、早く再整備したいのかもしれないが、立ち止まって考えることも必要。(委員長)

→ソフト面について質疑があったが、教育委員会ではソフト面についてこれまで議論し、ハード面についても並行して検討してきたことをご理解いただきたい。財政面に対する効果があるという点については最も大きな課題であり、葉山町の一般会計の規模が約130億円であり、学校再整備の試算では196億円の費用が生じる。資材の高騰により入札が不調になる自治体があることから、財源的な課題について庁内で検討しているところではある。資料には令和8年度から予算計上していくスケジュールが示されているが、1年間延期し、それまでの間に方向性を決める必要がある。(事務局)

- 教育の内実については議論が進んでいる。（委員）
- 学校再整備により他施設を集約し、学校を開放することが財政的なメリットになるし、官民連携することで事業費を抑えられる場合もある。学校単体では官民連携は成立せず、複合化による効率化を検討することが重要。以前、愛知県の自治体による学校と公民館を複合させるプロジェクトに携わったことがあるが、財政的に厳しく、学校の予算として整備するのは普通教室と職員室だけで、特別教室と体育館は社会教育施設として整備した。平日昼間は児童が校内を利用するが、放課後や週末に地域の方が利用する。低予算でフルスペックの学校を整備することができた。東京都でも同じ手法を用いていることがあり、社会教育施設として温水プールを整備することも可能だと思うが、利用料金は利用者に負担してもらうことになる。（委員）
- 全国的に人口減少が進む中、葉山に住みたい方はおり、計画だけでなくチャレンジする気持ちが必要。（委員）
- これまでの会議で出た意見が反映されておらず、町全体で考えていく必要があると思っている。堀内会館の再整備に関しては初めて聞き、学校再整備も途中経過が分からない状況で何を発言してよいか分からなかった。インフラも含めた町全体の計画を検討できるとよい。令和45年までの財政シミュレーションが示されているが、町が所有する施設を長寿命化する場合の60年程度の期間の財政シミュレーションも示してもらいたかった。前回委員長から、期間が短いシミュレーションは正確に出ないとの指摘があったので、もっと長期的なシミュレーションが必要と考える。（委員）
- 自身が葉山小学校に通学していたが、当時はマンモス校と呼ばれていた。老朽化と少子高齢化が進む中、なるべく地域の方が集まれるスペースが必要だが、安全面を考慮するといずれは施設利用が難しくなるのではないかと思った。（委員）
- ・一点確認したいのだが、児童館の利用状況を教えてほしい。（委員）
- 午前は乳幼児と保護者が多く利用し、午後は小中学生が利用することが多い。（事務局）
- 児童館を廃止する自治体が増えてきた。札幌市では、児童館と児童支援センターと小学校を合築し、放課後の学童保育を校内で行うことで、児童館で行っていた学童保育より広いスペースが利用できるようになった。実際にどのようにスペースが使われているのかを把握し、スペースの有効活用を検討するほうがよい。（委員）
- 長柄小学校には放課後ルームがあり、放課後に児童や地域の方が参加している。葉山小学校においても導入を検討しており、複合的な施設の要素になると思う。（委員）
- 杉並区においても、当初は学校と図書館を合築しようとしたが、敷地面積上の理由による反対の声があり、現在は公民館と図書館の複合施設が整備され、中学生が利用したり、子どもたちと高齢者が交流する場になっている。敷地面積の問題は生じるが、連携しやすい施設についても検討するとよいかもしれない。（委員）

- ・最後になるが、堀内会館は皆が納得し安心安全だと思える、価値のある施設になるとよい。次年度の開催では、検討状況の経過を事前に把握したい。資料は横のつながりが分かるような示し方にしたい。 (委員長)
- 過去の議事録を配付する場合は、委員名が分かるようにしてほしい。 (委員)
- 次回の開催では葉山町の公共施設を視察してみたい。 (委員長)

以 上